

題材 4年『初雪のふる日』(全文別紙参照)

解釈

小さな女の子がろうせきの輪の中に飛び込んだ時点で、すでに白うさぎの魔法のようなものにかかっていた。「飛び込んでみました」とあり、その結果が「女の子の体は軽くなって、ゴムまりみたいにはずんできた」からである。

⑭「女の子は、ゆめを見ているような気がしました。」の時にはもう女の子は気を失った状態であり、白うさぎにはもう体の自由を奪われていた。⑳「それだけで、女の子は、またゴムまりみたいにはずみだし、ろうせきの輪のとおりにとんでゆくのでした。」で完全に白うさぎの魔法にかかり、抜け出せない状態になっていた。

㉔「もう氷のようになりました。」から女の子が死にそうになり、「おばあちゃん、助けて。」と心の中でさげんだ時、草の種がよもぎの葉を授けた。草の種は女の子を応援し、なぞなぞを思い浮かぶ魔法をかけたため、女の子は「よもぎの葉っぱのうら側は、どうしてこんなに白いのかしら。」とさげがことができた。白うさぎの足取りがおそくなり、答えを聞いてよろこんだ白うさぎがよもぎの歌に変えたため、女の子は逃げることができた。

④⑩「気がついたとき」で気を失った女の子は目が覚め、白うさぎの魔法から解放された。

疑問

- ・なぜ、女の子はしゃがんでいたのか。
- ・なぜ、女の子はさげんだ後、ろうせきの輪の中にぴよんと飛びこんでみたのか。
- ・女の子の疑問が「だれがかいたんだろう」から「どこまで続いているの」になぜなのか。
- ・ゆめを見ているような気とはどういうことか。
- ・なぜ、女の子はどきとしたのか。
- ・何が「大変」なのか。
- ・なぜ、女の子は一生けんめいおばあさんの話を思い出そうとしたのか。
- ・女の子が「春のよもぎの野原」を思いうかべた後、あたたかいお日様と、たんぽぽの花と、みつばちと、ちようちようのことを考えたのはなぜか。
- ・なぜ、女の子は、どうしても、よもぎのおまじないを唱えることができなかったのか。
- ・なぜ、女の子は一まいの葉を思わず拾い上げたのか。
- ・なぜ、女の子はよもぎの葉を、そっとむねに当ててみたのか。
- ・なぜ、女の子はだれかにはげまされるような気がしたのか。
- ・なぜ、女の子の頭にふっとすてきななぞなぞがうかんだのか。
- ・なぜ、女の子はひと息に言ったのか。
- ・気がついた時とあるが、いつから気を失っていたのか。



「お、初音だ」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

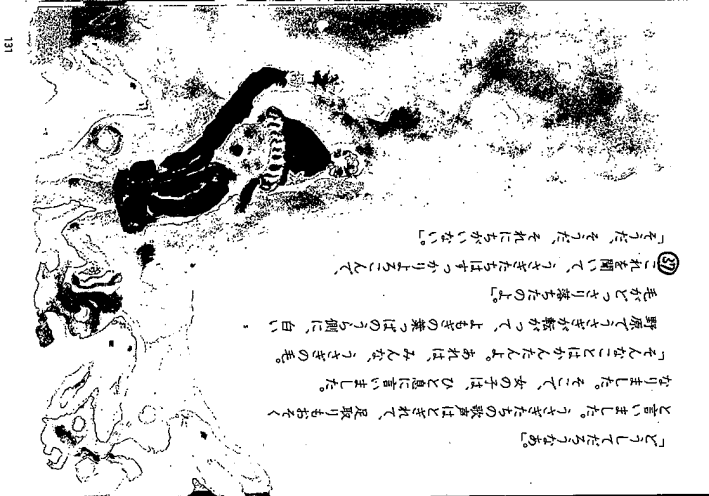
「お、お母さん」

「お、お母さん」



「お、お母さん」

「お、お母さん」



「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」

「お、お母さん」